

1 プランの達成状況 (2016年-2020年)

○ 2020年度 (令和2年) までの目標値として、国が設定した6項目に加え、東京都独自で設定した3項目の合計9項目を設定し、プラン達成状況の指標としてきた。

指標		都目標値	2016 (H28年)	2020年 (R2年)
国	1 人口10万人対り患率	12以下	17.2	11.3
	2 BCG接種対象年齢における接種率	99%以上	97.5%	101.3%
	3 全結核患者DOTS実施率	95%以上	97.7%	98.6%
	4 潜在性結核感染症DOTS実施率	95%以上	98.1%	98.4%
	5 治療失敗・脱落率	5%以下	2.3%	1.7%
	6 LTBIの治療を開始した者のうち治療完了者の割合	85%以上	88.2%	90.3%
都独自	7 塗抹陽性コホート判定不能割合	5%以下	7.0%	-※
	8 培養検査結果把握割合	95%以上	97.6%	95.6%
	9 薬剤耐性感受性検査結果把握	95%以上	89.2%	95.8%

全項目で目標値達成

※2017年(平成29年)新規登録分より、国のサーベイランスシステムの集計対象外となったため 指標から除外

2 結核対策の主な課題

(1) 外国出生結核患者の継続した発生 (図1-1、1-2)

新型コロナウイルス感染症による入国制限の影響もあり一時的に減少しているが、外国出生者の割合は依然として全国平均の11.9%(2022年)より高く全体の約17%を占める。特に若年者で多く、15~39歳では全患者の7割程度を占める。

(2) 新規患者の80歳以上の割合 (図2)

80歳以上の新規結核患者数は減少傾向だが、全体に占める割合は3分の1を超えて推移している。

(3) 結核患者の入院困難 (図3)

2024年7月現在の既存病床数は282床。そのうち稼働病床数は267床。このうち感染症法第37条の1に基づく入院が可能な病床は219床となっている。

特に、合併症等、専門的医療が必要な結核患者に対応可能な医療機関は限られており、入院先・転院先を見つけにくい状態が続いている。

(4) 結核菌株確保 (図4)

結核の発生動向を分析するため重要な菌株の収集率は、実施対象を拡大した影響で2023年は大幅に上昇したが、国の指針による「結核菌が分離された全ての結核患者」の把握に向けて、引き続き菌株確保を拡充していく必要がある。

現行対策の維持と強化・重点課題の抽出と対策強化を内容として、東京都結核予防推進プラン2018を改定。

3 参考データ

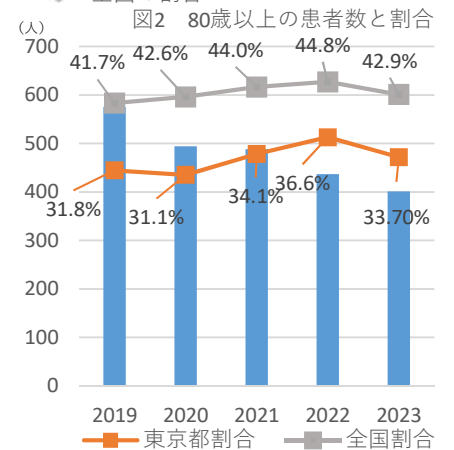
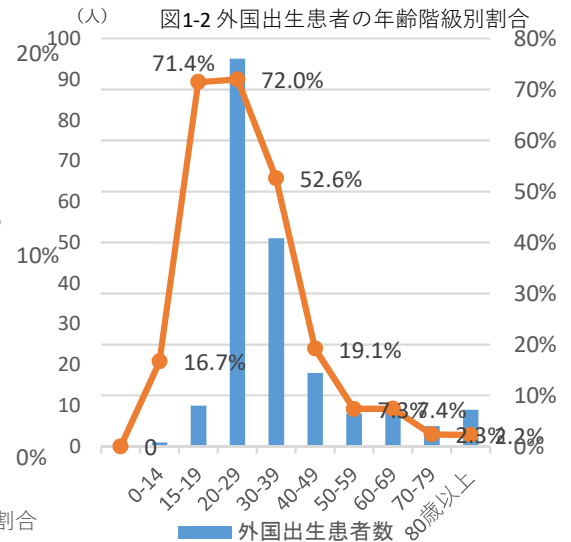
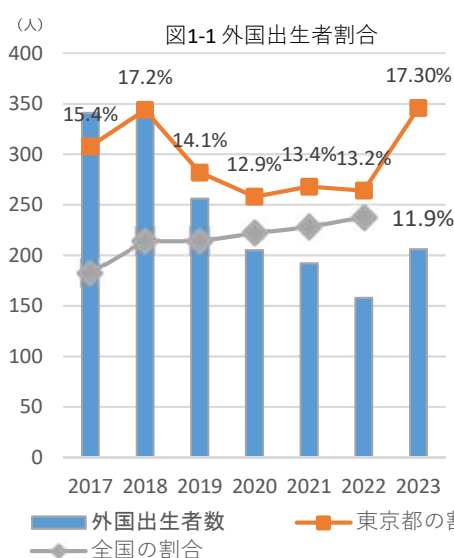


図3 1日当たりの都内結核病棟平均空床数

